

東部地区部会

1. 綾瀬地区開発について
2. 北綾瀬駅周辺のまちづくりについて
3. 地下鉄8号線について
4. 中川の防災について

(推進委員)

上野 剛 北村 敦子
篠崎 廣志 白井 淨
林 千尋 横溝 正雄

(カウンセラー)

池田 秀平
小川 勉
田中 光義
沼田 文子
吉田 錦次



みんなで参加する
地区開発、交通網
及び河川防災設備で、
安心・安全の構築。



1. 綾瀬地区開発について

綾瀬小学校、東綾瀬中学校の校舎建替えに伴う、綾瀬保育園、東綾瀬区民事務所、家庭支援センター、交通公園、綾瀬住区センター学童さくらの跡地をどのように活用するかは、長い工事期間後の利活用をどうやって行うかも含め重要な問題であると考えます。

また、現在綾瀬地区にはホテルが新たに二棟開業し、今後ますます綾瀬地区の都心への利便性需要が高まり、公共交通との充実と共栄を模索することが望まれます。

「にぎわいのあるまちづくり」として商店街の活性化を進めつつ、都立公園、都立武道館等との融和のあるまちづくりをしていくことが必要かと考えます。交通公園等の跡地を綾瀬地区発展の誘導につなげることが望まれ、さらに大型台風に対する綾瀬川の防災対策促進を発信して、安心安全なまちづくりを展開していくことが重要だと考えます。



交通公園等跡地



綾瀬駅東口駅前

2. 北綾瀬駅周辺のまちづくりについて

北綾瀬駅の改良工事（2020年完了予定）、しょうぶ沼公園改修工事、道路拡幅改良工事が現在進められており、地下鉄千代田線が北綾瀬始発の駅になり、平成31年3月16日より始発の約半分が10両編成で運行することとなりました。利便性の向上により、駅を利用する頻度は大きく高まり、今後のさらなる乗降客数の増加が見込まれます。

駅近くの道路、歩道の整備、タクシー、一般車乗降場の整備、バス停を駅近くに誘致することが検討されています。

地元では北綾瀬駅周辺まちづくり協議会が開催されており、今後も地域住民の意見をふまえ、北綾瀬駅の利用者増加に対応する交通ネットワークの整備推進、商業施設等の誘導による賑わいの促進、駅前照明装置設置による防犯、利便性の促進、しょうぶ沼公園を拠点とする緑化の推進が望まれます。



北綾瀬駅



北綾瀬駅、しょうぶ沼公園

3. 地下鉄8号線について

地下鉄8号線の延伸については、平成28年4月に交通政策審議会答申に位置付けられましたが、その後の進展が見受けられません。

地元の「佐野町会・自治会連絡協議会」は、平成30年7月24日及び本年7月29日にも「公益信託あだちまちづくりトラスト」に対し、区内延伸PR活動および地元機運の醸成・拡大を図るべく、のぼり旗・横断幕の作成費用の助成を頂くために、プレゼンテーションを行い助成を受け作成し、地下鉄が通ると思われる葛西用水及びその周辺に設置しているところです。

さらに今年は、4月7日に「葛西用水さくら通り流し踊り」と称して、PR活動を行いました。また毎年11月には、足立区中川小学校体育館に於いて、機運を盛り上げるために整備促進大会を開催し、区内及び延伸すると思われる自治体の方々の参加を頂いております。地下鉄8号線の促進を望みます。



地下鉄8号線 のぼり旗



地下鉄8号線 横断幕

4. 中川の防災について

中川の防災について、「第18地区町会自治会連絡協議会」（以下18町自連とする）は、「安全・安心・住みやすいまちづくり」の為の活動を行っている。

第19号大型台風の上陸の前、10月10日に18町自連水害対策委員会による台風対策会議が実施され、情報の共有化と今後の対応について確認され、各町会・自治会はその結果を持ち帰り、災害タイムラインに沿って準備を開始しました。

当自治会では、10日役員会議で対応策を検討、11日に対策本部を設置し、「台風19号への警戒・対応について」を自治会700世帯に組長を通して、緊急配布し注意喚起を行うとともに、高齢者・要支援者に対し避難先と12日正午避難所への送迎を呼びかけ、12日正午に8名を中川区民事務所3階に避難させました。

その後13時に、北三谷小学校に避難所15時開設の通知が入り、関係役員での避難所開設準備と運営にあたりました。16時以降、当避難所には高齢者・子供を含めた避難者が続々と訪れ、最終避難者は317人でした。今回、今までの水害対策委員会による何度もの勉強会を行ったことが現実となり、実践に繋がりました。

台風19号は、関東・東北地区に大被害を与えました。20日の近隣町会との合同避難所訓練では、今回の経験から昨年に比べ多くの住民が参加されました。これからも起こりうる台風・大雨に備え、個人個人が生き延びるための警戒、自助・共助・公助の連携の大切さが強く心に残った体験とのことでした。

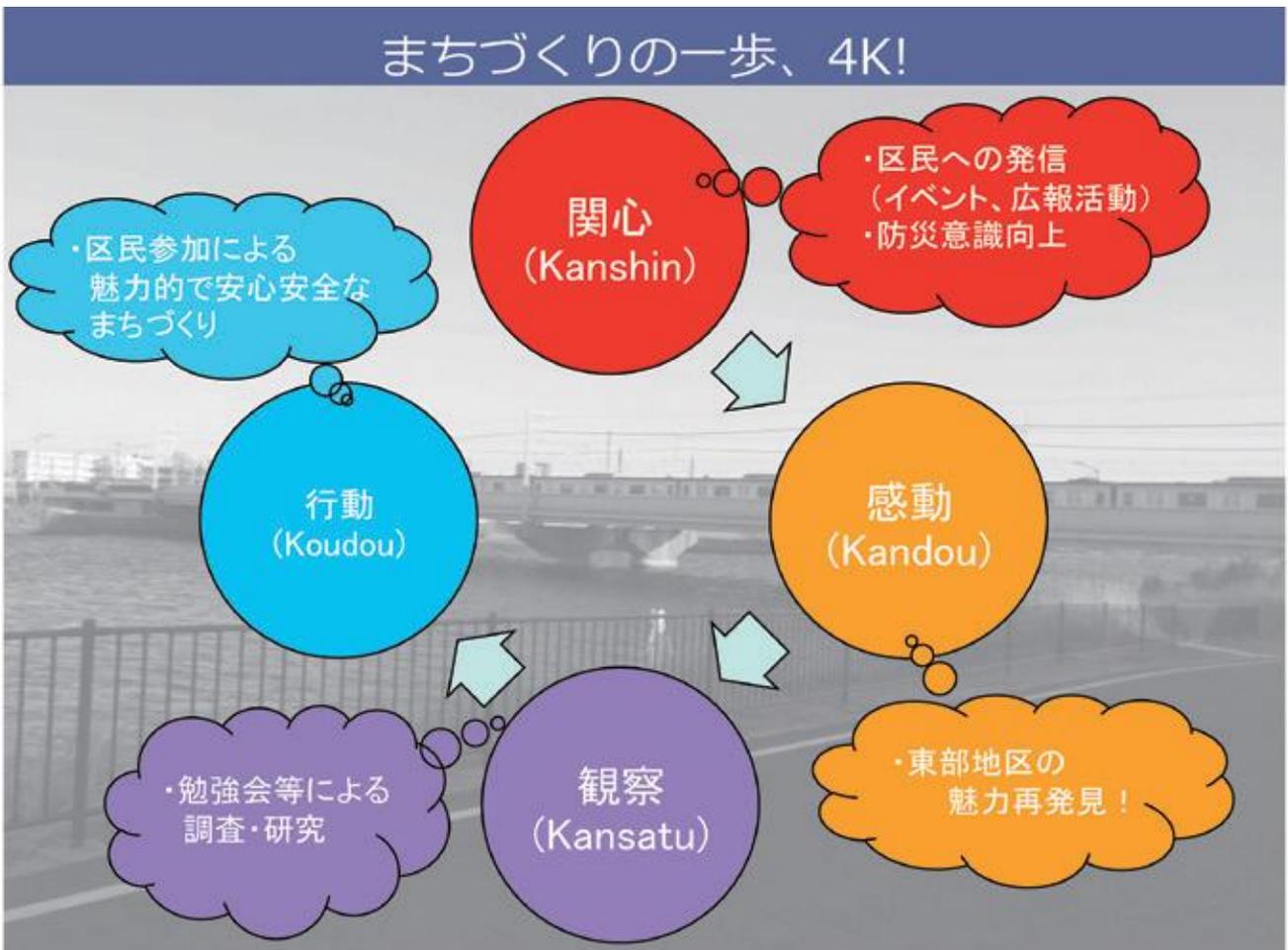
今回の体験を検証・分析し、自治会として更なる備えに活かしていただき、防災対策の推進が望まれます。



中川遠景



地域防災マップ等



東部地区部会研究発表について

人任せだけでなく、自助、公助、共助の連携

私の専門は、ご紹介いただきましたように医療と福祉です。本日のご発表、開発やハードについてのお話が多かったと思うのですが、まず関心を持つこと、地に足のついた意見を持って人々と意見を交換していく、考え方を交換することで人のネットワークができていく、一人で担うのではなく、みんなで担っていこうという関係が作られていくことが素晴らしいと思います。

次に行動ですけれども、要望を伝えていく、自分たちで相談する、きちんと伝える、自分たちでまちを育てていくという発想も、皆様が、自らその担い手となり実行されようとしている点が非常に素晴らしいと思います。

また、人任せだけではなく、自助と公助と共助の連携を図っていくというお話がございました。まちは、人々が集まっている暮らしの場。皆で集まって暮らすからこそその問題もあります。それが強みになっていくことを強く発信されています。大変素晴らしいご発表だったと思います。



山田あすか

東京電機大学
未来科学部建築学科教授

中川地区の水害対策

中川地区には第十八地区町自連のコミュニティタイムラインがあります。例えば、台風19号が足立区に向かっている、3日前にできること、2日前にできること、買い出しに行くとするれば2日前、前日、風や雨が強くなる時はもう外に出ない。そのために早めに避難する、これがタイムラインです。

自治会、町内会が、主体的に考えて動く、これを中川地区では3年前から行なっています。今年の台風19号の時は、中川版のタイムラインを使い住民の方々は、自発的に動きました。

台風19号のようなことが今後起こるとした時、行政がすべて対応するのはなかなか難しい。そういう意味では、まちづくり、地域づくり、そこに住む区民の皆さんが行政と一緒に、避難所の運営をしたりすることが必要だと思えます。そういうことも、中川地区は、取り組みの中で進めています。このような取り組みを、私はどんどん広げていきたい。それが、結果、足立区に住めば安心安全ということにつながると私は信じています。



松尾 一郎

東京大学大学院
情報学環総合防災情報研究センター客員教授
足立区総合防災行政アドバイザー